

## 第7回 武蔵野市子ども自然体験委員会

日 時 : 平成 16 年 6 月 9 日 (木) 18 時 30 分 ~ 20 時 30 分  
場 所 : 商工会館 第一・第二会議室  
出席委員 : 梅田委員長・石井副委員長・安藤委員・川住委員・宮寄委員  
高石委員・永田委員・藁谷委員  
事務局 : 子ども家庭部長・教育部長・子ども家庭課長  
児童青少年課長・教育企画課長・指導課長  
生涯学習スポーツ課長 ほか計 15 名

### 1. 開会

### 2. 連絡事項

- ・第 6 回議事録の訂正等について
- ・配布物等の確認について

事前配布物...報告書案(6/7 版)、第 6 回議事録

当日配布物...報告書案(最新版)

### 3. 議事

梅田委員長

報告書の初めから順に、二重線の引かれた部分(内容が変更になる可能性のある修正部分)を中心に検討していくことにします。

#### 1 ページ 2 段落目「それ以降これまでの」

梅田委員長

「平成 15 年 12 月 15 日に、武蔵野市の子どもたちの自然体験のあり方及びその具体的方策について審議・検討することを諮問された」とありますが、この文章が長いものですか  
らわかりづらいのではないかと、私がかえました。諮問されてから、それ以降、私  
どもが検討してきたわけですから、かえたほうがよいのではないかと、思います  
が、よろしいでしょうか。

#### 2 ページ 2 段落目「自然体験の有無の問題」

梅田委員長

元の文章では「自然体験の問題」だけだったのですが、これだけではうまく伝わらない

と思いましたが。自然体験を持っているか持っていないかの問題ではないという意味ですので、「有無」という言葉を付け加えたものです。

2 ページ 1(2)のタイトル「想像力の不足や」

梅田委員長

「実体験不足による言葉の理解不足」が元のタイトルでした。自然体験で得られるのは、言葉の理解力でなく、これからどうなるのかとか空想すること、つまり想像力もあります。そこで、少しくどいようですが、「想像力の不足や言葉の理解不足」と加えました。

3 ページ 1 段落目「頻繁に聞いてくる子が多くなり」

安藤委員

元の文章では、「4～6年生は頻繁に聞いてくるようになり」と、みんながみんなそうではないので、このように「多くなる」と表現を変えました。

3 ページ 2 段落目

梅田委員長

「比較的未熟な状態で」というのは、人間という生き物が一人前となって世の中に出て行くまでには時間がかかるということです。他の動物に比べても成長は遅いのですが、これは柔軟に生まれてきたということなのです。下等動物は、いくら教えても成長しないです。人間は複雑な世界に対応できるように、柔軟に生まれてくるのです。なぜ人間の成長のために好奇心が必要なのかを説明するために加えた文章です。

事務局

今日ご欠席の鈴木委員から、梅田委員長に加筆いただいたこの部分に追加があります。同じ段落下から3行目の「バーチャルな情報がすぐに手に入る生活を」という部分です。

4 ページ 2 段落目「依然としてペーパーテストの数値が高いことが重要視される傾向」

事務局

「重要視される」と言い切るのではなく、「重要視される傾向がある」と鈴木委員から訂正が入っています。

梅田委員長

委員会としては、セカンドスクールは学力低下に結び付くので問題だとする保護者がいらっしゃるといふことに危機感を覚えていますので、ここはぜひ主張したいところでしたが、これでよろしいかと思えます。

5 ページ最後の段落

事務局

鈴木委員から加筆のあったところです。内容には変更はなくて、文章の区切りなどわかりやすいように直していただいています。

梅田委員長

下から3行目ですが、外野部の大人の「学力低下への懸念」と、子ども本人の「知離れ」というのが並列して書かれていて、ごっちゃになっていてわかりにくいと思いますが。

川住委員

ここに記述されている「知離れ」というのは一般的な用語なのですか。教育現場ではいかがでしょうか。「乳離れ」の間違いでしょうか。

梅田委員長

確かにあまり聞かないですね。では、鈴木委員とも相談してまた検討しましょう。

9 ページ 最後の段落「それらの体験の積み重ねの上に」「それらの積み上げの結果として」  
事務局

元は「それらの体験の中でその上の感性や能力・・・」となっています。

梅田委員長

「それらの体験の積み重ねの上に」のほうがわかりやすくいいですね。

事務局

もう一つの修正点の、元の文章が「それらの積み上げの上で、総合力としての・・・」でした。

梅田委員長

「積み重ね」という言葉が重なったので、ふたつめのほうを「積み上げ」としたわけですね。これでいいと思います。

8 ページ2段落目 報告書と、アンケート調査

藁谷委員

「生活体験・自然体験が日本の子どもの心をはぐくむ」という報告書と、「子ども体験活動等に関するアンケート調査」というのは、二つ報告書が出ているという解釈でよろしいのでしょうか。

安藤委員

前者の平成 11 年の報告書の中で、後者の平成 10 年度に行われたアンケート調査が引用されているということですね。

清水児童青少年課長

引用文とは思いますが、確認させていただきます。

事務局

引用部分は字体を変えて小さめのフォントにしていたのですが、改行するなどしてわかりやすくします。

藁谷委員

星野敏男氏が「自然体験活動の教育的効用」を論じているとありますが、星野敏男氏に肩書を加えたほうがいいのではないのでしょうか。明治大学教授ですが。

清水児童青少年課長

星野敏男氏ですが、肩書についてはこちらで調べます。

10 ページ 2 段落目「どのようなものが求められるかを検討する」

事務局

元は「どのようなものが」がなくて、「これまで述べてきたような力を育てていくために、求められるものを検討する」となっていました。

梅田委員長

各年齢層ごとに求められていることがあるということをお願いしたいところなので、このように加えました。

10 ページ 5 段落目「実施することが必要」

事務局

ここは「実施する」となっていました。他の部分は言い切っているので、なくてもいいとは思いますが。

梅田委員長

報告書では言い切ってしまうといいと思います。削るということでもよろしいですね。

10 ページ 5 段落目「基礎的な五感と感性の整備」

川住委員

「整備」という言葉は、施設のように違和感があります。体得だとか習得というのはどうでしょうか。

梅田委員長

体験して得るということですから、「体得」でしょうか。でも、五感と感性ですから習って得るほうでしょうか。

川住委員

「刺激し、発達が望める」ではどうでしょうか。五感とか感性というのは最初から持っているものではないのですか。

梅田委員長

全くないのです。この間お話しましたが、52 歳の方が目の手術をして初めてわかったことですが、見る訓練をしないと見るができなかったのです。体験するということです。フロッピーを初期化して初めて使えるようになるというようにです。やはり「体得」でしょうか。

10 ページ最後の段落「人間の子どもとしての社会性」

川住委員

「人間の」という表現はどうでしょうか。人間以外の子どもとしての社会性を身に付けることはないのですから。

梅田委員長

人間が他の動物と違うのは、将来のために今は我慢しようとする事なのです。それを主張したくて「人間の」と入れたのです。

安藤委員

では、「他の動物とは違う」という一文を加えればいいのではないのでしょうか。

梅田委員長

安藤委員のおっしゃったようにするか、全く取ってしまうかですね。とりあえずは取っておきましょう。

## 11 ページ最後の段落

事務局

元は「自然体験で育つ力とその効果を最も発揮できるであろう効果的な時期であると思われる」とありました。事務局で意味が変わらないように修正させていただきました。

梅田委員長

この「以上」というのは、2 番の「自然体験の年齢層ごとの目的とその効用」全体ということですよ。修正していただいても、わかりづらいです。

永田委員

二重線部分をすべて削るほうがすっきりします。「以上、これらの自然体験で育つ力とその効果的な年齢層の考察を基に・・・」はどうでしょうか。「効果的な」は入れなくてもいいかもしれないと思います。

梅田委員長

では、「以上、これらの自然体験で育つ力とその年齢層の考察を基に・・・」となります。

石井副委員長

それであれば、タイトルをもってきて、「以上、これらの自然体験で育つ力と年齢層ごとの目的とその効用の考察を基に・・・」のほうがいいのではないのでしょうか。

## 10 ページ最後の段落

藁谷委員

「ネイチャーゲーム」「プロジェクトワイルド」「プロジェクト・アドベンチャー」など横文字が多くなっているのですが、これらの専門用語は個別に説明など加えないとわかりづらいと思います。。それから、中黒の入った、「プロジェクト・ワイルド」が正しいです。

清水児童青少年課長

欄外に注釈を設けることにします。のちほど言葉の意味を教えてくださいませんか。

## 10 ページから 12 ページ

川住委員

「人間」と記述されている部分は、「人」でいいのではないのでしょうか。

#### 15 ページ 1～3 段落目

##### 事務局

元の文章では、前後のつながりが悪かったため、前の段落では大人の意識改革をしなくてはならないということ、後の段落では自然体験をできる場の提供に取り組まなくてはならないということ、それぞれ分けて書くことにしました。

#### 14 ページ最後の段落

##### 川住委員

「行政並びに地域団体等とのネットワークの弱さ」はわかるのですが、「今後への広がり  
の可能性」というのは何を指していたのだったでしょうか。

##### 梅田委員長

ネットワークを強めていくための方向性が検討されていないということだったと思いま  
す。縦方向と横方向、つまり行政と地域団体とのつながり、さらに地域団体同士のつなが  
りという意味だったと思います。

##### 事務局

ネットワークを強め、さらに輪に広げるということで解釈しております。

##### 小森子ども家庭部長

ここでは弱さだけを指摘していただければいいと思います。行政と地域団体間、地域団  
体とその他の団体間の連携の弱さについて、今後の可能性というよりは、課題の整理をこ  
こでできればと思います。

#### 16 ページ表

##### 藁谷委員

分類 2 の、「イベント」というのは「非日常」にくっつくのでしょうか。

##### 石井副委員長

「イベント・単発」です。イベント的行事と単発的行事ということです。

#### 18 ページ 4 段落目「子どもを自由に遊ばせることにより」

##### 事務局

言い回しをわかりやすく直しました。

5 ページ最後の段落「「知離れ」「学力低下への懸念」として」部分の再考

永田委員

自然体験をさせると、親御さんが、子どもの学力が低下するのではないかと懸念しているというのと、子どもの知離れの問題がやはり一緒に書かれてしまってわかりにくいようです。

梅田委員長

ふたつに分けて記述したほうがいいのかと思います。

石井副委員長

でも、知離れの主体は、子どもでもあり、大人でもあるのです。本も読まない若者もそうです。

川住委員

二つに分けて考えましょう。子どもたちが主語となる部分では、「知的欲求の低下」が現れているとし、保護者や一般市民については「知離れや学力低下への懸念」というようにするのはどうでしょうか。

石井副委員長

知的欲求の低下が、さらに知離れにつながっているというふうに表現したほうがいいのかと思います。体験不足による知的欲求の低下や知離れという観点から見た体験活動の必要性和、一面的な学力低下の懸念という側面からみる自然体験への軽視論が表出する危険性があるということ、まず述べます。そして自然体験を進めていくのにあたって、自然体験のあるべき姿や自然体験で得られることとを踏まえ、補うべき取組みを早急に進めていかななくてはならないとまとめていけばいいかと思います。再度申し上げますと、知的欲求の低下が知離れを引き起こしているのだということ、世間一般には体験型自然体験ばかりしていると、子どもの学力低下につながるのではないかと、今も学力が低下しているとして自然体験への軽視に拍車をかけているということです。そういう状況が生まれている中で、ここで一度原点に立ち返り、さまざまな視点から、自然体験のあるべき姿や、そこで育つものを明らかにしてというようにつなげていけたらと思うのです。

梅田委員長

体験不足が知離れになっているのであって、体験することによって知離れになっているということではないのだと主張したいということですね。

川住委員

知離れという言葉ですが、市民の方が理解しづらいのではないかと思います。注釈をつけるなどしたほうがいいのかではないでしょうか。教育現場ではわりあい一般的な言葉なの



でしょうか。

石井副委員長

最近よく使われるようになってきました。

梅田委員長

いわゆるフィロソフィアではないということです。

石井副委員長

学力低下の懸念というのは、保護者だけでなく、世論もです。おそらく大学関係者が一番初めに言い出したのです。政策的なものがあったのか、変な方向に進んでしまっている傾向を感じます。しかし、武蔵野市は学力が低下しているところか、とてもいい状況にあります。ただ、これを保持できるかという点が現状の問題なのです。歯止めをどこかでかけなければならないのです。この部分では、武蔵野のよき文化や風を広めて周りをも浄化し、なおかつ武蔵野のよさを保持していく体制をつくらなければならないというところを記述しているわけです。

一部の保護者には、子どもにジャンボリーやセカンドスクールを体験させて、よさを理解している方がいらっしゃいます。今のところはこういう保護者の方々が強くて、武蔵野のよさが保持されています。市民として、自然体験のよさを知っている方々が武蔵野市で育ってきているのです。

小森子ども家庭部長

まとめのところではなく、自然体験の軽視という項目を一つ立てるべきかもしれません。

梅田委員長

そうです。項目を立ててもいいくらいの重要な部分です。

小森子ども家庭部長

「世論の自然体験への軽視」というようなテーマで。「社会の自然体験への軽視」でもいいかもしれません。

梅田委員長

ここは、数行で記述できる部分ではないですね、もう少し膨らませていきたいです。非常に大事なところですよ。

9 ページ図

安藤委員

石井委員が黒板に書いてくださったときには、納得できたのですが、このように四

角で囲まれてしまうと、少しイメージが違いますが、石井委員はいいかがでしょうか。

石井副委員長

フリーハンドのほうが伝わりやすいのかもしれませんが。

梅田委員長

アバウトな部分がなくなってしまったのですね。アナログのほうがいいですけど。

18 ページ「自然学校（山村）留学体験事業」

永田委員

この部分はどなたも発言されていなかったと思いますが。

安藤委員

藁谷委員が記述されたところですね。一度消えた部分を復活させていただいたのです。

永田委員

セカンドスクールとジャンボリーを超えた、武蔵野市の自然体験のもう一つの大きな柱になるのかと期待できます。今まで議論したことがなかったですけど、報告するにあたり、もう少し検討したほうがいいのではないかと思います。とてもいいことだし、賛成なのですが、大きな柱になるのではないかと思います。議論が足りないのではないかと感じます。

梅田委員長

この中で述べられている「長期」というのは、どのくらいの期間を指すのでしょうか。

小森子ども家庭部長

これは、学校そのものを地方に移すということが根本にあるのです。柱にする施策としては、非常に難易度が高いです。セカンドスクールのように、児童生徒のほとんどが参加するといった事業とは一線を画すもので、少人数または個人で参加する者に対して、市としてどのくらい支援できるかといったことです。事務局側としては、既存の二つの大きな事業と同じように発展させるというイメージはいただいておりません。長期といえますのは、セカンドスクールが長くて10日間ですから、1ヶ月を超えるようなイメージです。

梅田委員長

余談なのですが、東京電力が百草園の近くに東電学園という広大な27haの雑木林、里山を持っているのです。あと3年で廃園になるのですが、全寮制で、講堂も教室もプールまで何でも揃っているのですが、跡地利用を検討しているということです。1ヶ月くらいここ

で暮らしたとしたら、学力低下を心配することもなく、自然体験ができるというわけです。東電の環境部にはそういう考え方もできると提言したところです。都市部にありますし、こういうところであれば、さほど難易度も高くないのではないですか。

小森子ども家庭部長

物理的な難易度ではなくて、しくみや対象を広げられるかなどが難しいのです。藁谷委員のところで一ヶ月キャンプというのがそうなのですが、特定の保護者が個人参加させるということであれば1ヶ月以上のプログラムも可能なのですが、セカンドスクールやジャンボリーのようなスタイルではできない、そういう事業として発展させるには障害がたくさんあって難易度が高いということです。

永田委員

留学体験を希望する保護者のために、環境を検討するというところくらいですね。親が決めるわけですから。

南條教育部長

実は遠野市から、このようなことはどうだと申し入れがありました。学籍の問題はどうするかなど、いろいろネックになることがあります。利賀村でも山村留学をやったそうですが、結果的にはお断りした。というのは、こういう理想的な自然との触れ合いのなかでたくましく成長するというのではなく、いわゆる問題のあるお子さんが見えて、親としては子どもを手放してしまいたいなどのケースがあったからです。中には子どものやっかい払い、戸塚ヨットスクールのようなケースになり兼ねない。制度的に学籍をどうするかという問題もありますし、難しいです。

安藤委員

長野県小川村と北海道のどこかでは、山村留学をやっているということをインターネット等で配信されているのですが、保護者など市民の方から、こういうことをしたいのだからと尋ねられたときに、催しているところなどを、行政がすぐに答えられるようになればいいと思ひまして、この部分を復活していただくようお願いしました。

南條教育部長

情報提供などであれば、可能だと思います。最終的には保護者の方と受入先の判断になりますから。1年間ほど留学するということになれば、それこそ学籍は正式に移してしまえば問題はなくなるわけです。

小森子ども家庭部長

さきほどお話が出ましたが、やっかい払いというのは実際に起こりうることです。われ

われがそうであってほしいと望んでいる自然体験事業として認識してくれるかどうかという不安があります。うまく運べば本当によい事業なのですが。

#### 藁谷委員

こちらで主催しているイベントについてですが、希望者だけというのが一般的で、不登校など何らかの問題のある子が参加しているという現状は否めません。そうではなくて、6学年のうち1学年の1学期は、どっぷり山村などに行ってしまうというようなことを、元々提案したかったところなのです。受験まで間のある低学年であれば、できるのではないかと思います。

#### 小森子ども家庭部長

セカンドスクールの長期化というイメージでしょうか。しかし、セカンドスクールの良さというのは、受入先の大人の方との交わりにあるのです。あまり閉じ込めた施設のようなところではなく、民泊のようなところのほうが、教育効果があるのではないかと考えられています。また、セカンドスクール参加者は希望者だけではないですから、10日間という、かなり長いという印象はあります。1ヶ月でも無理だと思います。

#### 南條教育部長

一般的に1週間や10日間セカンドスクールに行くことで、一番寂しい思いをしているのは、実は保護者の方です。子どもたちは、帰ってきたときにはケンカも解決し元気になっているのですけれど。インターネットでセカンドスクールでの子どもの様子を流してみたところ、かなりの数の保護者の方がパソコンで見てらっしゃるのです。保護者のほうが、子離れが難しいかもしれません。

#### 永田委員

この留学体験事業の部分を出していいのか、もう少し考えなくてはならないと思います。前段はいいのですが、留学の意味については、藁谷委員と我々の抱えているイメージも違っているわけです。このまま載せることには疑問を感じます。最後の「姉妹友好都市等との行政間の連携事業として検討していくことが望まれる」という部分ですが、もしかしたら、教育委員会の意思がここに表われているのかと思っていましたが。

#### 安藤委員

一度は全部なくなったところですよ。必要だと思って戻していただいたのですが。

#### 小森子ども家庭部長

この部分ですが、事務局としましては、意味合いを薄めました。半年とか1年間のイメージで学期ごとに行くとかでは難しすぎるのです。それから、さきほども申しましたよう

に、子育てにてこずった親たちが子どもたちをやっかい払いするという印象を払拭するために、このような意味合いにしました。

梅田委員長

それならば、もっと意味を弱めてもいいのかなと思いますが、いかがでしょうか。

安藤委員

削ってしまっても構わないです。

小森子ども家庭部長

長期の体験事業が非常に意味があるということは残したいのです。

永田委員

検討ということにしておけばいいですね。

石井副委員長

山村留学とは言わずに、より長期の自然体験事業の検討であるとか、試みということにしておけばいいですか。その中に、藁谷委員のおっしゃるようなことも組み込むといいですね。教育委員会というより、教員がいやがるかもしれませんが。

南條教育部長

確かに、他市でセカンドスクールのお話をしますと、「よく教員の方を説得できましたね」と言われます。

石井副委員長

武蔵野市に行けばセカンドスクールをやらなくてはならないと、教員はわかっていますから。ただ、武蔵野市を希望する教員は多いのですよね。

小森子ども家庭部長

前段で長期間の事業が非常に有効だということを述べておいて、そういうメニューも研究しなくてはならないということの後段で書くことにしましょう。具体的な手法は改めて書かないということでもよろしいでしょうか。さきほどのような問題もあるということにも触れることにします。

梅田委員長

以上で、事務局の方にまとめていただくことにします。よろしいでしょうか。様々な方面からのご意見でいろいろと議論ができて、事務局も校正が大変かと思いますが、よ

い報告書になってきていると思います。お疲れさまでございました。

清水児童青少年課長

それではこれからのスケジュールについてご説明させていただきます。この報告書ですが、本日の議論を反映させまして事務局でまとめさせていただきます。委員長と副委員長にはご確認いただくことになると思いますので、引き続きよろしくお願いたします。6月25日の午前9時半より市長へ報告書を提出する予定です。それまでに、今回ご議論いただきましたことを反映させた報告書を委員のみなさまにお送りします。できましたら、お忙しいとは存じますが、25日のご都合がよろしければ、市長公室までおいでいただきたいと思ひます。

小森子ども家庭部長

市長は、6月は市議会の本会議がありますため非常に多忙でして、先に日程を組みました関係で、このような日取りになってしまいました。委員長にはいらしていただく予定にはなっているのですが、他の委員のみなさま、当日ご都合のつく方は、ぜひ市長への答申をお願したいと思ひます。

梅田委員長

要約版のようなものは作られるのでしょうか。

小森子ども家庭部長

2ページくらいで、概要をつかめるものを作成したいと思っております。

最後になりましたが、昨年12月から7回にわたりまして熱心にご議論いただきまして、ありがとうございました。私ども武蔵野市ではたくさんの自然体験事業に取り組んでおりますが、なんとなく自然体験事業はいいものだと思っておりますが、このもやもやとしたものを真っ向からまだ議論したことがあまりなかったということが実態でございます。この自然体験委員会を通して、いかに議論が必要かということがよくわかってまいりました。先ほど一部の保護者と申し上げましたが、このような事業にお金を使うことに疑問や不満をお持ちの方がいらっしゃるの、事実でございます。そのような方々に対して、我々のほうから自然体験事業の重要性をきちんと説明する際、この報告書を参考にさせていただいて、自然体験に対する理解を深めていただき、なお一層自然体験事業を充実させていきたいと考えております。非常に難しいご議論だったと思ひますが、ありがたい報告としてまとめていただきましたので、市長に報告し、長期計画に反映させていきたいと思っております。ありがとうございました。